

国語 第5学年 五年生の本だな 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある7月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「今の関心を別の見方へ広げる本はどれか」を問い、読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選ぶ。次の読書の選定理由の初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、読書が考えを広げることに関与すると気付く、選んだ本と自分の関心を結び付けている。思考・判断・表現では、読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選ぶ。交流や試行の前後を比べ、次の読書の選定理由を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読書が考えを広げることに関与すると気付く、選んだ本と自分の関心を結び付けている。〔知識及び技能〕(3)オ	①「読むこと」において、読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選んでいる。(C(1)カ)	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 (本時)	○読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選ぶ。 ○考えた理由を交流し、次の読書の選定理由を仕上げる。	知①・思①（学習記録）／態①は関連する学習の記録も合わせて見る。

本時の案

本時の目標：読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選ぶことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「今の関心を別の見方へ広げる本はどれか」 【めあて】考えを広げるための読書について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・別の立場の本も読んで考えたい。 ・どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。同じ内容の本だけを候補にする姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選ぶ。 3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「今の関心を別の見方へ広げる本はどれか」について伝え合う。 4 友達と異なる点を本文や資料で確かめ、読みや説明を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・別の立場の本も読んで考えたい。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	テーマが近く立場や形式が違う本も比較する。知識・技能では、読書が考えを広げることに役立つと気づき、選んだ本と自分の関心を結び付けている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選んでいる。(C(1)力)(本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明)
まとめ (分)	5 次の読書の選定理由を確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】本は題名や紹介、内容を確認してから選ぶことで、自分の関心や読む目的と結び付く。 6 最初から変えた点、理由を確認してから残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。今の関心を別の見方へ広げる本はどれかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（次の読書の選定理由と実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には考えを広げるための読書を確認する語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に次の読書の選定理由で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまづきやすい所と手当て

予想する難しさは、同じ内容の本だけを候補にすることである。テーマが近く立場や形式が違う本も比較する。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

次の読書の選定理由
「今の関心を別の見方へ広げる本はどれか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。テーマが近く立場や形式が違う本も比較するための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード
初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_5_202401.docx)／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口 (<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>)／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編 (https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf)／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

